

イルカとふれあうことで、海の大切さを学んでもらいたい

マリンピアザ・オキナワで始められた、 ドルフィン・エデュケーショナル・プログラム

ヨットやカヌー、半潜水船による海底散策など、さまざまなマリン・アクティビティーが体験でき、B & G 海洋体験セミナーの拠点にもなっている、マリンピアザ・オキナワ。ここに、今年の10月からドルフィン・エデュケーショナル・プログラムという新たな体験メニューが加わります。7月からプレ・オープンしていたため、2003年度のB & G 海洋体験セミナーに参加した子供たちはすでに体験しましたが、これはイルカとふれあいながら海の自然環境について学ぶプログラムです。

セミナーに参加した子供たちは、エサを与えたり頭をなでたり、イルカとふれあうことができたというだけで大いに喜びましたが、その楽しい経験のなかでイルカの心拍数を数えて体調を観察したり、イルカの生活についてインストラクターから説明を聞くなど、知らないうちにその生態や海の環境などについて学ぶことができました。



イルカのほうから、近くに寄ってきてくれました

「基本的に、これは環境教育のプログラムであり、イルカとふれあう体験は、海の環境を学び、海の大切さを知る動機付けとして捉えています」

プログラムを運営し、イルカたちの世話をしている福島広太郎さんらスタッフは、フロリダにあるドルフィン・リサーチセンターで研修を受けてきたベテラン揃い。このリサーチセンターとは技術提携をしており、マリンピアザの敷地内にイルカ専用の診療所を設けるなどして、飼育管理については万全の体制を整えています。

「人もイルカも、そして海も健康でなければプログラムは運営できません。ここで飼われている9頭のイルカたちは、診療所で月1回、血液検査を受けています」

オキナワの海は、気温も水温もイルカの生育に適しているそうで、特に台風の高波が入らないマリニピアザ・オキナワの入江は、理想の環境だそうです。

「イルカたちが新しい住まいや訪れる人間たちに慣れてきたら、飼育場所から海に出してあげ、子供たちが乗るカヌーやヨットと一緒に泳がせてあげたいと考えています」

そんな楽しいプログラムが、1日も早く実現することを期待したいところですが、実はイルカたちには別の仕事も待っています。福島さんには健康科学財団の理事という肩書きもあり、イルカを使ったセラピーも行っていく予定なのです。



スタッフのみなさん。後列中央が福島さんです



芸もできるようになってきました

「セラピーを行うには心理士や医師などの協力も必要なうえ、イルカと接する時間も十分に確保しなければなりませんので、1日に2~3人程度のプログラムしか組めません」

エデュケーショナルが9割、セラピーが1割程度の活動になるだろうと福島さんは語っていました。この2つの仕事は、9頭のイルカたちにストレスを与えないよう、上手にローテーションを組みながらこなしていくそうです。かわいいイルカたちですが、実は私たちが考えている以上に働き者なのです。